

ウルトラトレイル・マウントフジ 2023 全体説明会議事録

日時：2022年9月20日（火）15:00～17:00

会場：富士河口湖町 中央公民館 視聴覚室

議題：(1) 2023 大会運営計画説明（大会概要、コース、環境面など）

(2) 質疑応答／その他

ウルトラトレイル・マウントフジ2023 全体説明会  
出席者名簿

2022年9月20日

No	氏名	所属・部署
1	齋藤 明光様	環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官
2	小西 美緒様	環境省 富士五湖管理官事務所 国立公園管理官
3	半場 良一様	環境省 国内希少野生動植物種保存推進員 山梨県 希少野生動植物種保護専門員 富士山自然史研究会会員 日本野鳥の会南富士支部会員
4	池田 真人様	環境省 国内希少野生動植物種保存推進員
5	長田 朋彦様	富士五湖消防本部 救急課
6	伊藤 卓弥様	富士五湖消防本部 救急課
7	渡邊 修治様	日本野鳥の会 南富士支部
8	水越 文孝様	日本野鳥の会 富士山麓支部
9	藤井 幹様	公益財団法人 日本鳥類保護連盟
10	松永 聡美様	公益財団法人 日本鳥類保護連盟
11	中澤 大喜様	富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合
12	七井 辰男様	特定非営利活動法人富士山クラブ
13	加藤 弘一朗様	株式会社時之柵
14	楠木 毅	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 大会会長 NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 代表理事
15	福田 六花	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 コースディレクター
16	千葉 達雄	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 株式会社Tエ代表取締役プロデューサー
17	岡嶋 智己	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 一般財団法人アールビーズスポーツ財団
18	市川 洋介	富士市 交流観光課
19	影山 智海	富士市 交流観光課
20	梶原 浄	富士河口湖町 生涯学習課
21	北川 浩正	富士河口湖町 生涯学習課
22	上小澤 翔吾	富士吉田市 生涯学習課
23	神谷 知里	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
24	佐藤 和	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
25	鈴木 磨美	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
リモート出席		
26	平野 淳様	環境省 沼津管理官事務所 国立公園管理官
27	刑部 美鈴様	環境省 沼津管理官事務所 自然保護官補佐
28	花城 啓太様	静岡県 暮らし・環境部環境局自然保護課
29	戸澤 梨紗子様	山梨県環境エネルギー部自然共生推進課
30	星野 利春様	関東森林管理局 山梨森林管理事務所
31	吉田 裕樹様	公益財団法人 日本鳥類保護連盟
32	福原 みさよ様	富士山エコレンジャー連絡会
33	三浦 務	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部 事務局長
34	村越 真	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 アドバイザー NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部
35	中尾 益巳	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 アドバイザー NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部
36	風岡 達也	富士宮市 産業振興部
37	セルナルド 裕慈	富士宮市 産業振興部
38	村松 雅志	身延町 企画政策課
39	若林 由美	富士山麓観光資源”輝き”協議会 事務局
40	西山 洋哉	御殿場市 スポーツ交流課
41	勝又 脩介	御殿場市 スポーツ交流課
42	渡邊 健太	裾野市 産業観光課
43	岩谷 忠彦	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局
44	関谷 正太郎	ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 事務局

## <大会会長挨拶 鎬木>

本日は台風でお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。皆様にお世話になりまして2022大会も無事に終わりもう5ヶ月が経ちました。おかげさまでトレイルランニングの方も秋のシーズンからようやく少しずつ正常化して我々もふと胸を撫で下ろしているような状況です。ただ、また大きな違った課題が出てきております。ランニングビジネスだけでなく日本のスポーツビジネス全体に関わることで、非常にコロナ前に比べて参加者が少なく、どの大会、どの興業、試合、観戦と色々なものが減ってきている。このような状況はコロナ禍が終われば、元に戻ってくるだろうと耐えていたが、先行きの見えない苦しい状況になっております。ご多分に漏れず春に開催した本大会も非常に大きな赤字を背負っての開催となってしまいました。2023年大会についてはそこもしっかりと見据えながら、一部自治体の皆様にはご迷惑をおかけすることもございます。そんな中ではありますけども、先々月この春の大会をNHKのテレビメディア等で取り上げていただき、非常に大きく扱っていただきました。後ほど大きな反響がありました。その中で2023年大会に向けて、非常に大きな盛り上がりができています。この3年間海外の選手をお呼びすることもできませんでした。来年の大会ではようやく海外選手をご招待させていただき参加できる状況になってきております。この春の大会は開催すれば御の字ということでなんとか成し遂げたけども、来年大会については富士山麓の多くの市町村の地域振興を担う本来の形にできるのではないかと考えています。そんな中で各関係団体の皆さんには「こういったことはできる」「こういったことは連携できる」ということを色々持ち寄っていただきながら来年大会に向けて盛り上げていただければと考えております。本日はこの大会に関する多くのキーマンの皆様にお集まりいただきました。是非とも忌憚のないご意見をいただき、来年に反映させ素晴らしい大会にしていきたいと思っております。本日はよろしくお願い致します。

## (1)2023 大会運営計画説明

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

### 【大会概要】

(配布資料「運営計画書」に沿って進行)

主な内容は以下の通り。

○開催日：2023年4月21日(金)～23日(日)

○種目：UTMF(165.3km)、KAI(69.2km)の2種目

○参加資格：今大会は海外在住者にも門徒を広げる。

Virtual UTMF2023を開催し完走者にはVirtual UTMFは3ポイント、Virtual KAIは1ポイントを付与し、エントリー時の認定レースとする。

○エントリー期間：優先10月19日～11月13日 一般・寄付10月26日～11月13日

○参加費 UTMF 優先／一般40,000円 寄付100,000円

KAI 優先／一般26,000円 寄付80,000円

○募集人数：UTMF2,400名、KAI800名

○スタート会場：富士山こどもの国(静岡県富士市)

○フィニッシュ会場：富士急ハイランド コニファーフォレスト

○イベント：「VirtualUTMF」アプリ「TATTA」を利用したヴァーチャルランイベントを開催。エントリー費3000円。完走者には完走ワッペン、UTMF2023に利用できる資格ポイントを付与。

「UTMF LIVE」国内対象で日本語のみのライブ配信。

「UTMF EXPO」受付を1箇所にするにより集客を前年の1.5倍を目標とする。

「環境ガチャ」自治体から景品をご提供いただき、売り上げを整備の費用としてNPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部へ全て寄付。

○受付：4月20日(木)富士急ハイランド コニファーフォレスト。前大会は3箇所であった会場を1箇所にし、効率的な運営を計り、EXPOへの集客を目的とする。

○表彰：総合表彰のみ盾を授与。年代別表彰はメダル等で対応予定。

\*情報公開日は10月19日とする。

## 【コースについて】

(配布資料「UTMF2023 コースマップ」に沿って進行)

21km 付近：U1 富士宮エイド周辺を富士宮市所有の土地へルート変更予定。富士宮市と応相談。

50km 付近：U2 麓エイドへ至る箇所がキャンプ場となるので変更。また U2 麓エイドより出る箇所は当日 GOOUT が開催されているため交通量が多くなり危険なため横断を伴わないルートに変更。

大塚山から小倉山：道路横断を伴わないルートに変更予定。

選手・スタッフの安全確保ができないと判断された場合、荒天下などで選手通過によって自然環境を損なう可能性がある場合などに使用される迂回路 6 ルートを設定。

## 【自然環境への配慮】

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

### 【環境面に関する報告】

○山中湖村石割山登山道等の整備（5月27日～6月5日に実施）

環境ガチャでの 30 万円の寄付と NPO の通常予算、環境省のグリーンエキスパート委託費を合わせて、以前コースで使わせていただいた登山道の整備を実施。北海道から指導者を招き「近自然工法」を用いてより自然に近い形で、山中湖村役場・平野地区・環境省富士五湖管理官事務所・ボランティア官民一体で行った

\*詳細は NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部公式サイトからもご覧いただけます。

<https://fuji-trailrunnersclub.com/environmental/2022/07/88894/>

○クマタカ等猛禽類の生息状況調査

<公益財団法人日本鳥類保護連盟 藤井様>

(コースマップ、資料を掲示しての報告)

例年よりも規模を縮小し静岡県側と山梨県側で 4 月、6 月、7 月に実施

\*保護上の観点から「生息状況調査」は割愛させていただきます。

<公益財団法人日本鳥類保護連盟 吉田様>

(鳥類センサス調査の報告)

大会実施中の 4 月 22 日～23 日に、コース上の 80km を実際に走行し生息状況調査を実施

\*保護上の観点から「生息状況調査」は割愛させていただきます。

影響があるか分からないが杓子山の鐘を夜間についている方が多くいる。その際に鳥が動く状況が確認できた。

→杓子山の夜間鐘つきに関しましては禁止といたします。事務局から選手に向けてお知らせいたします。

## (2) 質疑応答／その他

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

藤井さん、調査ご苦労様でした。まず藤井さんの調査から感じたのは、あまりにも調査日数、範囲、かける人数、規模が小さすぎて何もわからないだろうというのが感想です。お金を捨てているのと同じだと思います。きちんとした調査をやるのであれば、ビシッとお金をかけて 1 つのことをやった方がはっきりとした結果が出ると思います。それは是非お願いしたいと思います。以前、私が天子山塊でクマタカがよく観測される場所を地図に落とし込んでお渡ししたと思うのですが、今でもそこではタカ類が繁殖しているのではないかと考えています。高い頻度で観測され

ています。それを確定させるためには現在のその調査体制ではまるっきり不足です。まずそれをなんとかして欲しいというのが第一です。

話が変わると思いますが、以前の説明会の時に質疑応答ではない時間でお話をした時に絶滅危惧種のクマタカとか特別な鳥の調査だけではなく、ごく普通一般の鳥に迷惑をかけているはずなので、そちらの調査をしたらどうかという意見が聞かれました。実際にはこの大会が始まって2年目だったと思いますが、我々の調査で、一般鳥の繁殖期に大会の直前の日と終わった直後の日に調査を行って、比較対象をした結果を提出してあるはずですが、その時の結論としては明らかにさえずりが減ったとか、繁殖に影響があることが有意に見られる結果が出ています。ただその時は大会が5月末という繁殖期でも最も危険な時期ではあり、その結果を受けて、ここは記憶が定かではないのですが、4月に1ヶ月前倒しすること、秋に大会を変更することの2つのことを行われたと記憶しています。できれば秋に移行してもらえれば今までの問題、野鳥に影響ということに関しては簡単に払拭できて全く問題ないのですが、別の問題があるということで現在の4月下旬に行われるようになったと思いますが、4月下旬になったから5月下旬が繁殖の真只中なのに、4月下旬は繁殖期ではないのかと言われればそんなことはなく、要するに夏から南から渡ってくる鳥が渡りつく丁度の時期なのです。繁殖期のもっとも初期の段階で番い形成をしたり、巣を作ったりする危険な時期に抵触するような時期であることがわかりました。そういうことを考えますと以前我々が5月にやって影響があることが判明したということは、そのまま4月の末にも当てはまるということです。ですから4月の末に関して猛禽類のような特別な鳥ではないごく一般的な鳥についても影響があることはすでに証明されているわけです。その点を是非絡ませてください。まとめると二点なのですが、鳥類についての調査は徹底的にやるべきことが大事なのです。人数をかけること、広い範囲でやること。藤井さんのお話にもありましたが、クマタカがいるのは天子山塊だけではないのです。石割山や杓子山の周辺にも地形的に考えて間違いなくいます。だからその調査をやったらどうかという意見だったので、そうすると予算的には大変な金額になってしまうかもしれないのですが、やるのでしたら徹底的にやった方がいい。もう1つが先ほども申し上げましたけども、一般の鳥類の繁殖期の影響に関しては5月末であろうと4月末であろうとも同じであるという点です。その点を考えると 時期をさらに前倒しにすると繁殖期の前後に変えるというのはあまり意味がない。秋にしてしまえば全て100パーセント解決することです。その点についてご考慮していただきたいと思います。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会アドバイザー 村越>

吉田さんの発表についてお伺いしたいのですが、お一人で走られての観察なので言えることは限定的だとおっしゃっていましたが、例えば夜間にほとんど鳥の動きが見られなかったというのはどういう解釈ができるのか。例えばそれは鳥がいないということではないと思いますけど、夜間の進行がそれほど鳥の行動に影響を与えないと考えていいのか、そういう結論は難しいのか。そのあたりはいかがでしょうか。

<公益財団法人日本鳥類保護連盟 吉田様>

結論はなかなか難しいところではあります。動けば小さい声を出しますので絶対にわかると思います。基本的には林道を走っているのです。そこに鳥が寝ているわけではない。真ん中に寝ているわけではないし、木の上に寝ているので。音を立てれば、杓子山のところでは動いているのが聞こえましたのでそういうところは影響があるのかと考えています。一緒に走っていますけども、そんなに並んで走っていくこともないので鳥が逃げることもない。動いていることは走っていて確実に思いました。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

渡邊さんの質問に対してございますか。調査の徹底と時期の変更が主だったと思いますけど。

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

調査につきましては確かに今年は縮小せざるをえない事情がございました。予算の都合です。大会を2回中止しましたのでそこでの大きな赤字であるとか、あるいは寄付エントリーを今回の大会で募ることができなかったので、正直NPOの活動そのものも貯金を食いつぶしながら何とか維

持っている状況でして、本来ならば例年通り調査したかったのですが、やらないよりはやった方がいいだろうということで限られた予算でできることを今年はやったというところがございます。今後また寄付エントリーが復活して予算的に元のレベルに回復できれば調査についても拡大したいとは思っております。とはいえ、どこまでできるかというのは予算との兼ね合いをよく考えながら決めていきたいと思っております。藤井さんからもご指摘ありましたが、本来ならば他のエリアも着手したいと思っておりますが、ない袖は振れませんので予算との兼ね合いでやれる範囲で広げていきたいと考えております。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
調査したのは開催日と重なる時にやったのでしょうか。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会事務局 神谷>  
2月と7月です。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
全然違う時にやって調査になるのですか。

<公益財団法人日本鳥類保護連盟 藤井様>  
小鳥の調査は連盟の職員が個人的に大会に参加し、大会当日にランナーと一緒に走って取ったデータです。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
それはわかりました。全コース見ないままで調査しないで予算がないから強行してしまう、ということですね。そう理解していいですか。

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>  
強行というふうには我々は理解しているわけではありません。野生生物への影響がある可能性があるということで我々ができる範囲での調査はしております。では一方で我々がトレイルランニングの大会としてそのエリアを使用すること自体に違法性があるとか、反社会的活動であるということであれば強行と言っているのかもしれないけれども、決してそういうものではないと理解しております。ただご指摘いただいているような影響というのがあるかないか我々としても気になる場所ですから調査をさせていただいているのです。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
調べないところがほとんどで、期間的もおかしいまま開催されると理解すればいいですか。お金がなければやっていいということですね。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>  
この大会は、平成 27 年に環境省が発表されました「国立公園内におけるトレイルランニング大会等の取扱いについて」各地方環境事務所宛に国立公園課長通知として出しているものです。この方針に乗っ取って大会がやっています。その中で、おっしゃる通り野鳥に関しては初めから入っていないです。これがそもそもの出発点だと思うのですが、現実的な話を申し上げますと日本全国、世界中のどの大会でも野鳥の調査はしていない。地方地方で違うので、できる限りのことをやりましょうということでやらせていただいています。国での大々的野鳥の調査は私が生きてる中で 3 回くらいしか行われていないものだと思います。半場さんや渡辺さんのご希望にそうというのは難しいところではあると。もちろんいくらやっても「いいよ」というのは永遠にないと思います。現実問題、国でやったとしても 50 年間で 3 回しかやれないような大規模なものを、できるところでもいいので野鳥調査をやらせていただいて、私も正直どうしたらいいのかと悩むことが多いのですが、どうしたら両立できるのかということをやっけないと富士山の国立公園というのは自然ばかりでなく多くの方が住まれていますし、実際工場や事務所がある。自治体の皆様の観光振興で盛り上げていきたいということがおありなので、野鳥調査に関してはなかなか

ご満足いただけることが難しいかもしれませんが、NPOの資金が不足であれば大会も事業費でできることは検討します。その中で100パーセントというのは難しいかもしれませんが、どれくらいだったら可能かということ煮詰めていきたいと思っております。開催時期に関しましても、9月というのはまさに今です。過去最大級の台風がやって来た3連休で来週も天候が悪いかもしれない。年々台風の大型化しているという状況の中で3日間の大会を安全にやろうとすると時期に関しても無視しているわけではなくやっているのでご理解をいただけたらとありがたいと思います。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

私が理解するのではなく、寒さや飢えで死んでしまう鳥たちのために言っているのがあって、私に理解しろと言われたってそういうものではない。時期を外すことができないと言うが、Facebookなどを見ると随分大会をやっているようですね。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 福田>

実際に9月10月11月は大会がすごく多いです。15年くらい前には秋の第4週くらいから秋雨前線がすぎると台風が来なかったのですが、この10年くらいは全くよめません。現実には台風が来たらどうなるかという中止にしている大会がいっぱいあります。私も秋に大会をたくさんやっておりますので、やむなく中止ということも時々ございます。ではどうするかと言っても大会はなかなか動かせません。大会の日程を決めるというのは多くの要素があります。まず開催地の事情です。あとは実際に人がくるかどうか。あまり暑くても寒くてもできません。そんな中で色々な都合が合うタイミングというのは数える程しかないのです。そこでやっているというのが実際です。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

随分と他でやっていますよね。いつもいい時にやってくれているなと思って。別にやめろと言っているわけではなく、日にちだけ変えてくれればいいだけです。他がやっているのに、ここだけできないとずっと言い続けている。意見を聞いてと、ずっと聞いているのですがそのままです。

<大会会長 鍋木>

この大会は3日間に渡る160kmという大会。夜間も走る、非常に危険な山岳地帯も走るということで、秋に台風が近づく中で開催するという事は選手、ボランティア、色々な方々を危険に晒すというリスク高くなります。我々は他の大会の安全レベルよりもひとまわり高いものを確立しています。この大会は2年間国際大会ができませんでしたけども、来年以降国際となった時に日本の地理に馴染みのない方が来るとなった時に非常に高い安全性を担保しなくてはならない。秋では非常に難しいというのが我々の見解であります。そして半場さんがおっしゃるように、我々は環境に則した大会としてできる限りのことをしています。トレイルランニング大会で世界的に見ても、他にないレベルでの環境維持のための色々な調査をやっているわけです。これは前例のないことです。それを10年間やってきました。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

前例がないと言っても、全然意味がない。

<大会会長 鍋木>

それをコミュニケーションしながら、これから未来に向かって作り上げていくという話ではないですか。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

これからはちゃんとした調査をするという約束です。

<大会会長 鍋木>

できる限りのことはしていきたい。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
できる範囲といつも言っています。毎回言っています。

<大会会長 鍋木>  
ボランティアベースの非常に苦しい中でやっている。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
だからやめればいけないじゃないですか。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行員会 実行委員 千葉>  
自然環境の中で色々な考えがあると思っています。折角環境省さんがいらっしゃっていますので何かご感想とかあればいただきたいのですが。元々環境省さんのモニタリング指針に乗っ取ってこの大会はやっておりますのでアドバイス等があれば。

<環境省富士五湖管理事務所国立公園管理官 斎藤様>  
個人の意見として、運営計画書を見させていただいて環境に配慮した取り組みをしていると思っています。野鳥に関しても生態系ピラミッドの中でクロタカが頂点にいる、それを元に調べて自然環境がどうなっているかとその辺を見ていくというポイントとしても悪くないと思います。ただ一方で、今言ったように一般種がどんどん減ってきている環境がありますので、こういう場が開かれているように対話して、できれば一般種のどういったところを調査したらいいとか、ボランティアの方々と一緒にできることはないのかということをお話していただければいいのではないかと感じました。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>  
環境調査はもう終わっています。

<環境省富士五湖管理事務所国立公園管理官 斎藤様>  
それをまた具体的に話していくことはできないでしょうか。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>  
影響があることはわかっているんです。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行員会 実行委員 福田>  
確かに調査が全部できないならやめたらいいというのもごもっともだと思います。ただトレイルランの大会を開催するというのは色々な面がありまして、地域振興であったり、日本人の健康であったりということも含めて、トレイルランを通して自然を親しんでもらいたい。色々な面があるので、たった1点で中止にするとは考えておりません。検討するというだけじゃないかとおっしゃっていましたが、我々もなかなか前に進めていないというのは事実ですが、現実的に広範囲の調査をやりたいと本気で思っています。ただ今現在、今大会も赤字でしたので厳しい状況で我々も厳しい思いをしております。そうした中で少しずつ削れるところは全部削って、予算ができたならまた少しずつ増やしていく。それは全員の思いです。引き続き色々なことを言って頂けるのが我々の力になりますのでよろしくお願いします。そのつもりでやっております。決して口だけでやりますやりますと言っているわけではございませんので引き続きお付き合いください。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
1つも進んでないと思っているのですが、これからもこのままですよね。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行員会 実行委員 福田>  
そうではないということをお話したいのですが、今言ったつもりです。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>  
結果しかいないです。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 福田>  
もう少し先にいい結果がお話できればと思っています。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

先ほど秋の開催と台風のお話がありましたけども、具体的な数値を出して欲しいです。10月にはそんなにたくさん来てなかったです。前に一度秋に開催した時があって、たまたまその時に台風だったかどうか知らないけれど、たった1回の経験でダメだという結論を出した。そのこと自体が問題だと思う。もう少し何回か経験して、ちゃんとしたデータを重ねて、そういうのを出してもらわないと説得力がないです。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

10月は過去2回くらいなので、それが多いか少ないかは考え方によりますが、ただ理解してもらいたいのは1週間台風がずれているからいいのではないかということにはならないのです。1週間前に台風が来て、トレイルがめちゃくちゃになったら大会開催は難しくなります。我々は人命をまず大切にしなければいけないということで、今日レベルの台風が仮に直撃したとして来週六花さん、できますか。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 福田>  
できないです。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

それは我々の世界では安全とは言いません。当日だけが大会ということではないということもあり、場合によっては1か月前でも深刻な土砂崩れが起こったら大会ができなくなるリスクも含まれて、春にさせていただいている。エビデンスがもう少し欲しいということならいたしますけど、皆さんにお伝えしたいのはエビデンスを1回お出しした上でご説明をさせていただいたつもりです。大会当日に台風が外れていればいいじゃないかと安全だということにはいかないのが現実です。そこも含めて2回トライさせていただいて、場合には命に関わるというご批判までいただいた上で、我々は会期を変更させていただいている。2回開催して人命に関わるというところまで行ってしまったということ踏まえてやっている。生半可な気持ちじゃあ春にしようとはやっていないということだけはお伝えしたい。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

納得はできませんが、モンブランのような森林限界を超えた生き物が全くいないところで安全に開催できる大会をそのまま日本に持ってきて、ほいっとできるという安易な考えではないのかと思っています。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

トレイルランニングはヨーロッパだけでやっている大会ではなく、今では東南アジア、アフリカそして南北アメリカ、オーストラリアを含む全ての大陸でやっている大会になります。我々は先日もUTMBに行ってきましたけども、UTMBをそのまま移植してやっているつもりはない。ローカライズした形で初回からやらせていただいている。

<大会会長 鍋木>

今年もUTMBでは1人亡くなっている。私が過去出たレユニオンという160kmのレースでも人がなくなっている。パタゴニアの160kmのレースでも人がなくなっている。非常に死と隣り合わせの大会です。ただ私はそういう危険な大会を日本でやろうとは全く思っていない。責任意識が世界と日本では違います。その中で日本の高い安全性を担保した上での大会が非常に大切なことだと

思います。決して荒唐無稽で危険極まりないことをやっているわけではありません。緻密な安全管理の中で運営していると理解いただければと思います。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

参加者や人に対する安全性に関してはよく理解できます。ただ特に野鳥に関しての緻密な安全管理ができておりません。これだけははっきり言えます。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

緻密な野鳥管理ができていますと言われると、できていますとは言えないと思いますが、できる限りのことは進めていきたいと思っています。もしよろしければ素朴な疑問やご意見等があれば、意見交換をいただければと思います。

<環境省富士五湖管理事務所国立公園管理官 斎藤様>

今の話は、いつも同じ人達が喋っていてそれに対して意見を言うのですが、他にもご参加いただいた方々、色々なセクションの方々がいらっしゃるの、そういう方達はどのように思っているか単純に聞きたいと思っています。

<富士市交流観光課 影山様>

色々とお話を伺っていて、環境に配慮した大会の取り組みは大事だと思っていますが、一方で実際人口が減少している中でどうやって地域を活性化させていくかが課題となっていると思います。UTMFというのは地域に人を呼び込む可能性があり、私は素晴らしい大会だと思っています。この大会を通じて、大会側から自然保護活動をPRしていますので、それを参加する方々が知っていただくいい機会になるのではと思っています。環境省さんとか県さんの補助金で野鳥の調査、自然保護の活動に使えるというものがあればいいと思って調べていたのですが、国内希少野生動物種保全という補助金が環境省さんであるみたいなので、こういったものを大会で申請して使っていくというのがあるのかなと思いました。

<株式会社時之栖 加藤様>

純粋に議論をお伺いさせていただいていつも感じていることなのですが、すごく粘り強く対話をしてここまで細かく議論を重ねている場というのは色々な実行委員とか打ち合わせの場に参加させていただいていますが、あまり例として見たことがないので、対話の場として重要なのだなと実感するところではあります。UTMFの大会自体が将来的にどういう方向性を持っていきたいかというのは関わらせていただいてなんとなく実感できるものがあります。もう一方で環境の部分に関して言いますと、関わる人達が未来がどういうふうに、どういう世界を実現していきたいのかが、ちょっと見えづらいといつも伺っていて感じているので、例えば中長期の観点でどういうふうな世界を表現していきたいという思いがもう少し見えてくると意見がしやすくなるのではないかなというのが素朴な感想です。

<富士河口湖町生涯学習課 梶原様>

富士河口湖町の場合、観光で食べている町です。富士河口湖全域が国立公園内の場所です。観光で食べている町だと思っています。よそから来ていただいて、お泊まりいただいて、この富士山と湖を楽しんでいただいてなんぼの町だと思っています。この大会においても2400人がエントリーして国内外から人がいらっしゃる。サポートされる方、家族の方、多勢の応援の方が富士山の周辺にお泊まりいただいて、コロナ禍の背景の中ではありますが、この地域が観光で活性化していく、富士山を楽しんでいただくという目的で色々なイベントをしていくのも1つだと思います。野鳥の会の方のご懸念も理解ができます。ウルトラトレイル・マウントフジのスタッフの皆さんの今までの努力というのでも理解できます。また今後も話を進めていく中でよりいい大会を充実させて担ってくれればと思います。世界に誇る富士山周辺の地域だと思っていますので、様々な大会で盛り上がっていただければと思います。

<富士吉田市 上小澤様>

富士吉田市としましてもスポーツを遂行しており、富士登山競走等のランニングイベントもしておりますので、UTMFさんの運営方法も参考にさせていただきながら運営させていただいております。UTMFについては本当に日本でもトップクラスのカテゴリーだと思います。参加するのを目指して準備しているランナーの方々もいらっしゃると思いますのでぜひ開催していただけたらと思っております。環境面についての取り組みの説明をわかりやすく、すごく気を使ってやっていらっしゃるのだと思いました。素朴な疑問なのですが、3日間ランナーが走ることによってそれほどまでに影響があるのかと。毎日とか、半日続くのであれば影響があると理解できるのですが、2日間くらいで1000人ちょっと走るということがそこまで影響あるのかわからないので教えてもらいたい。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

何日間だったら安全で、何日間だったら危険かという感覚の話かと思うのですが、仮にもし近くに繁殖に入った鳥が近くにいたとしたならば、例えば卵を抱いていたとして、その巣の近くを永遠に何時間にも渡って数千人の人が通過したら、その間鳥は卵を温めることはできません。したがって即その卵は死にます。逆にクマタカなどに関して言えばもっと敏感です。もっと何メートルと離れた場所であってもそこに巣を構えていたならば、数千人も通過すれば即座に放棄して巣の中の卵やヒナは即死にます。そういう実態があるということを知っていただきたいと思えます。

<日本野鳥の会富士山麓支部 水越様>

クマタカに限らず動物一般に突然の非日常がダメなんです。それだけです。常時ダンプが通っているとか人が歩いているとか日常的な刺激は大丈夫なのですが、非日常の刺激が与えられますとそれに反応します。

<富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合 中澤様>

我々は先ほど富士吉田市さんからお話があったように富士山を使ったマラソン大会の入山許可という形で出している団体になるので、大会の概要であったりとか詳しいことは正直お話をすることはできないのですが、富士山に登りたいという人達が集まってきて富士吉田市であったり富士河口湖町であったりと市の活性化に繋がるのはいいことと思います。ただそういった人達が富士山に入ること、外来種であったりといったものも入ってくる、自然に対する問題も確かにある中で環境団体の方が調査に入って富士山の自然を守ろうという取り組みをしているので今の富士山の現状があるのかなと思っています。この大会の概要を聞いた時に自然や動物に対して前向きに色々考えてやっているとしました。だからといって野鳥を考えてくださっている団体さんの意見を聞き入れるということは難しいと思うのですが、お金がない中でもなんとか工夫してできればと思います。

<特定非営利活動法人富士山クラブ 七井様>

野鳥の会の皆さんのお話もよくわかるし、自然を愛する人達の考えとして非常に共感するところもあります。私も小鳥を飼ってまして、小鳥がどれだけ繊細な動物か身をもって感じております。大会が始まって何回目かの時期にも同じようなご主張をされたので1つ疑問に思うのは、なぜその時からもう少ししっかりと調査をやってこられなかったのかというのが感想としてあります。私も実際にNPOに携わってみて、ここ2~3年のコロナ禍というのは大変な状況で主催者の皆さんも積立金を取り潰しているのがほとんどだと思いますのでそちらの立場もよくわかりません。折角の貴重な野鳥の会の皆さんのご意見なのでその話をプラグマティックにこの先を捉えつつ、お金はかかるでしょうが調査をやるべきではと思います。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

お金を十倍かけて調査をしたとして、これはいかんということと言えるのか。それも無駄金になる気もしないでもない。この時期にできないならやめるしかないでしょう。うちの家においでと言ったのに、お金がかからないのにあなた達は1度も来なかった。もしうちに来て繁殖してるい

のがわかったらやめてくれるのかと聞いたら、やめないとされた。調査の意味がない。日にちを変えるかと言ったら変えないと言われた。お金を何千万円かけて野鳥の調査をするとして、わかったら野鳥のためにやめてくれるのかと聞いたら、検討しますと。どれくらい検討してくれたのか。うるさいだけで、ワンパターンの返事をしておけば終わらせられると思われたのかと思っている。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

色々な考え方があるとは思いますが、ここにいる行政の方々が野鳥に問題があるのでやるべきではないと、明確にコンセンサスをとれてやるべきではないと言うならばUTMFはやるべきではない。我々は全て皆さんにコンセンサスを取れてないかもしれませんが、大多数の方々にはコンセンサスを取って、やれることはやってみましょうと話合いをしながら進めています。例えば逆の形で、行政としてエビデンスをつけた野鳥調査で明確な変化があったと、これは町の活性化にならないというなら今すぐにやめます。でも我々はそうは思っていない。もちろん反対する方々もいるとは思っています。何とか折り合いをつけて全体を進めていこうという方々が多くいると思って進めている。莫大なお金をかけて本当に問題があるという話があって、それが全ての行政の方々が、行政の首長の判断、国の判断で富士山でトレランをやるのは難しいという話であれば今すぐやめます。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

君たちが調査をすると言うが、何のための調査かわからないのですよ。予算を10分の1か100分の1しか出さないで、日にちも変えずどんな検討をしているのかわからないまま強行するだけ。富士山クラブさんが飼っている可愛い小鳥が飢えて死んでしまうんです。それが目に見えているのでやめてくれと言っている。それと行政がどうのと言われても、私達は行政のためにやっているのではない。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

そもそもの話をしているわけではなく、行政は自治体も首長も含めて選挙で選ばれた人達なわけです。民意があるからそれを尊重するという話です。

<富士五湖消防本部 長田様>

今の議論は置いていただいてもいいでしょうか。安全管理の部分について何点か質問があります。UTMFとKAIの2種類のコースがあります。開催場所を見ますと、静岡県富士市、富士宮市、山梨県身延町、鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、忍野村、山中湖村とあるのですが、何年から前から会に参加させていただいていますが、参加している消防本部がうちだけなのです。KAIのコースの鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、忍野村、山中湖村はうちの管轄になるのですが、富士市、富士宮市、身延町は管轄の消防本部が違うので、ここに大会概要等の説明をしているのか、会の参加名簿にないので教えていただきたい。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

富士市、富士宮市には事前に運営計画書を送り訪問させていただき、緊急搬送体制があまり強い地域ではないので気をつけるようにとご指示をいただきながら進めております。身延町さんは漏れていますか。すぐにするように致します。

<富士五湖消防本部 長田様>

身延町は峡南消防本部の管轄になります。峡南消防本部からも問い合わせがありまして、ぜひとも危険が伴うレースですのでよろしく願いいたします。それに付随しますが、救護所が11ヶ所ほどあるようですが、身延町の本栖湖の部分には看護師のみで医師の方がおられないということでしょうか。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 福田>

U3の本栖湖は確かに看護師のみとなっております。なぜかと言いますと15~20kmくらいに救護所を設けており、麓と本栖湖は非常に距離が近いこと。その区間は端足峠だけ山があり、あとは朝霧高原の中の東海自然歩道の平地なので危険箇所が少ないこと。全てに医師が配置できることが一番いいが、長時間になるので配置できない箇所もあるので看護師にいていただいて、何か異常が認められた時は連絡がいきます。ただ峡南消防本部に連絡をしていなかったというのは我々の手落ちであります。ご指摘ありがとうございます。

<富士五湖消防本部 長田様>

これは消防サイドからのお願いというかたちなるとは思いますが、本栖湖周辺はどうしても富士吉田市や富士河口湖町に搬送しなくては行けないということで距離がある。市街地よりも医師を配置した方がいいのかなと考えたので質問させていただきました。先ほど命を落とすこともあるというお話がありましたが、この救護所には当然応急処置セットはあるのでしょうかAEDの配置はしてあるのでしょうか。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 福田>

AEDは全ての救護所に配置をしております。救護所で医療の全てができるわけではないので当面の応急処置をするということ、外傷であったり熱中症、低体温症、点滴等、アレルギーの対処もできるようにアドレナリンも用意しています。全てを救護所で賄うことではなく、救護所で完結できることなのか、救急搬送しなくては行けないのかと判断するのが救護所となります。救護所には全部で15名前後の医師が関わっていますが、全てベテランでランニングに精通している医師を個別に私が集めております。かなり厚くて正確な判断ができていると思います。命に関わることであるので、そこは深くやっていきたいと思っております。

<富士五湖消防本部 長田様>

県を跨ぐ市町村を跨ぐトレイル、山を走るので、当然昼間だけではないです。ヘリコプターの使用も考えられます。発生場所が静岡県側でも降ろしてくれば山梨県側ということがあると思っております。消防サイドとしてもそのことを踏まえて静岡県側富士宮消防等と調整をしていかななくてはなりませんので、大会実行委員会の方も緯度経度の座標を取り入れたものなどお願いできたらと思っております。

<環境省国内希少野生動植物保存推進員 池田様>

皆さんすごく努力して運営しているとよくわかりました。遊歩道や登山道の整備をやっていただいて嬉しく思います。野鳥の会さんに質問ですが、秋なら開催が大丈夫とおっしゃっていたのですが、4月22日以前でどれくらいであれば大丈夫なのか。皆さん努力しており参加される人も非常に多い。これだけの規模のことをしっかりとやっているものでぜひ続けては欲しいのですが、一方環境の中で23ページ「その他の配慮事項」の中でも野鳥の繁殖時期を考慮して大会開催を実施すると謳っている。秋が厳しいのはよくわかった。台風があれば安全にも関わってくるのはよくわかるのですが、大会側としてはどれくらい前倒しするならどれくらいのことのできるのか。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

4月がダメなら1ヶ月前倒しで3月なら大丈夫かという話になるとそうもいかない。今、調査をお願いしているクマタカがちょうど卵を抱き始める時期なのでもっと危険になってしまう。それ以前に気候的にまだ雪が降る可能性が非常に高い時期です。さらに前はもっと危険な時期です。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 福田>

大会としての開催時期の前倒しは、これ以上前というのは厳しいという見解です。雪のリスクと気温です。今現在4月第1週に大会をやっていますが、標高1600mの地点だと夜間は0度になった年もございます。2019年は大会中に雪が降って短縮開催ということになった。これ以上は前倒しにはできないというのが現状だと思います。

<身延町企画政策課 村松様>

2022年に町として初めて会場に行き準備をさせていただいた。選手の頑張りやボランティア方々のサポートをととても身近に感じ、皆さんの熱い想いを感じることができすごく感動した大会でした。環境問題や色々なことがある中でお互いがわかりあって1つの大会をやるということに、色々な努力をされていますのでなんとか大会を皆さんが喜べるようなかたちでできたらと感じています。

<静岡県くらし・環境部環境局自然保護課 花城様 >

個人的な意見ですが、ランナーに対する環境保全措置の啓発みたいなものがあればもっと良い大会になるのではと思います。そのあたりはどのような取り組みがあるのでしょうか。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行員会 実行委員 千葉>

環境保全に関しましては今ですとNPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部で集約させていただきまして、過去のものも全て公開されております。運営計画書もちろん公開させていただいております。歩道整備に関しまして一部ではありますが、ランナーから募集をかけて参加してもらっている。啓発も引き続きしていかなければいけないと思っているので頑張っていきたいと思っております。

<関東森林管理局山梨森林管理事務所 星野様>

大会の運営にあたりそれぞれの立場で想いがありなかなか統制することが難しいと感じておりますが、こういう場で色々と意見が出るのは良いことだと思います。個人的な意見になりますが安全面、地域振興と猛禽類だったり生態系だったり配慮するところのバランスを取るのが難しいのかなと感じています。色々なことにお金の話が出てきてしまいそこが十分でないことも当然あるかと思えます。お金が確保できるやりくりを今後どうされていくのかと感じました。地域振興として地元にお金が落ちるといふことであれば、ふるさと納税で利用するとか幅広く検討していくのもいいのではと思います。

<環境省沼津管理官事務所国立公園管理官 平野様>

一般論として公園管理というところで個々の部分と行政の部分で難しいところだと思いますが引き続きこういった場で議論させていただければと思います。

<富士山エコレンジャー連絡会 福原様>

昨年走った石割山の整備をされたことで、今回大雪山から指導者を招いて地元の資材を使ってボランティア方達で近自然工法をされたお話がありました。エコレンジャーでは過去に使われた須山口登山道をパトロールしてその後の状況を観察し報告しています。そこは崩れやすく多勢のトレイルランニングにはふさわしくないということでコースからは外されたと思うのですが、1度荒れたところはなかなか修復が難しい。修復していただいてもまた大きな雨が降ると崩れてしまう。トレイルランニングに使わないところでも登山道が崩れているところを見かけます。富士山の登山道の修復をどのようにしたらいいか、富士山にふさわしいやり方を学びながら直していくことが大事だと思います。どんなかたちで修復をされたかをHP等で見せていただき、可能であればボランティアで参加し学べたらと思います。

<NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

実は須山口登山道に関しても近自然工法での修復ができないかということで、5月6月に行われた実施作業の前に大雪山から専門家の方に来ていただいて石割山と一緒に須山口登山道も調査を致しました。修復可能ということでお話はいただいているのですが、一度にあちこちできないということもあり今回石割山から始めました。今度いつできるかというお約束はできませんが、将来的には須山口の方も作業ができたかと考えております。実は山梨側と比較すると崩壊原因が圧倒的に雨による水流で発生しているという理由があり、違う方法が必要ではないとも考えております。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会アドバイザー 中尾>

私は今、岩手県大船渡市におりまして、2年半前よりこちらで色々なスポーツイベントを企画運営しております。UTMFより距離を置いてしまったのですが本番には関わってお手伝いしております。半場さんには、現場に行ってお尋ねするとお話をしたままずっと行けず申し訳ないと思っております。野鳥の話と色々出ましたが、10年やってきてまだまだこのような状態なので、とにかく実績を積んでいくしかないと思っております。今日聞いた中で、野鳥連盟の吉田さんが実際にコースを走られて野鳥を確認されたことに驚き、ランナーの目から野鳥がわかるということが貴重なことだと思えました。そういう体験をランナーの人達にもちゃんと知らせることで出場者の目線や考えが変わってくると思いました。貴重な調査だったので、ランナーにも広めていくことに意味があると思えます。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

環境に関しましてはモニタリング調査をもちろんやっていきますが、野鳥の調査に関して継続する方向性でよろしいですか。

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

もちろん継続していきます。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

大会のお金でなんとかかできることであれば、もう少し考えなければいけないところなので皆さんと一緒に考えていかなければと思っております。調査を実施する場所に関して、藤井さんから違う場所の方がいいのではと示唆されてはいたけど、こちらはどうですか。場所を変え他で調査した方がいいですか。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

結局お金の問題です。やるとするならば0からのスタートになるのでさらに予算が膨らみます。今やっただけの天子山塊は、私の方からこことこことこを意識してくださいとあらかじめわかかって調査しています。その前の段階から始めることになるのでお金がないなら余計に無理です。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

やるとしたら変えた方がいいですか。それとも同じところをやった方がいいのか。

<日本野鳥の会 南富士支部 渡邊様>

できないのなら一定の場所で日数と人数を大量に投入してそこを徹底した方がいい。その積み重ねです。全部なんて冗談じゃない。

<環境省国内希少野生動植物種保存推進員 半場様>

自然公園で特別な鳥が見られるのは幸せなことですが、普通の鳥はスズメでもシジュウカラでもヤマガラでも見られたらとても山を歩いていて幸せになれる。普段目にする奴らが道脇でやっている。そっちが大事だと思っている。その調査はやろうと思えばできるが、今回ランナーとして走ってくれた時は、前のランナーが通ったらいない。その状態で調査と言っても無理だと思います。私は1日2回犬と一緒に山を歩いているがそのイメージと、走って1種類でした2種類でしたとそんなわけがない。毎日見ているし、夜も歩いている。飛び立ったりすると迷惑をかけたとコースを変えたりもしている。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

調査をどうするかを明確にお返事した方がいいですね。

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

今回吉田さんにやっていただいた調査はこれまでにない貴重な調査だったと思いますが、これはあくまでボランティアベースでやっていただいたことなので、本来であれば総合的知識を持った方をお願いする以上は仕事として発注しないといけないと思っているが、そこは今のNPOの財政事情ではすぐに着手はできない。次回大会の寄付エントリーがどの程度集まるかによって、その次からは拡大していければと考えている。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

議事録を皆様に送るタイミングで、どこで調査をすると言うのは難しいですか。

<NPO 法人富士トレイルランナーズ倶楽部事務局長 三浦>

その場ではお答えできません。

<公益財団法人日本鳥類保護連盟 藤井様>

先ほどはご意見いただきありがとうございます。ここで何回か参加させていただいて、ほぼ意見が平行線なのでどうしたものかと思いますが、いくつかできることがあると思います。先ほど水越さんがおっしゃっていたように非日常的なものがよくないという話もありました。私たちは何千人の人が何時間もかけて通過するイメージしかない。163kmもあればスタート地点とゴール地点でばらつき方も全然違う。実際に各チェックポイントを作ってどれくらいの時間をかけてどれくらいの人が通過していくのか視覚的に見せていくだけでも落とし所を作る手がかりになるのではと思います。私は日本鳥類保護連盟側の人間なので、渡邊さんと半場さんのおっしゃることもわかる。でも少なくともこれが国交省のアセスメントに基づいた調査ということであれば、我々はずっとちゃんと調査にお金をかけてやりなさいと言えますが、実際には調査義務がないトレイルランの方のほうが進み寄って来ている段階で、完全に喧嘩腰でキレてしまったらもう皆さんを呼ばないで勝手にやりますとなりかねない。何かしら落とし所を作っていかないと、色々な立場の人がいて色々な考えがあるわけで完全に1つになるというのはなかなか難しい。ここで1番リーダーシップを取れるのは環境省だと思う。環境省さんがワーキンググループを作ったり、調査方法をどうするかということを進めたり渡邊さんや半場さんや水越さんや地元の方を集めて聞いたほうがいいと思います。その中で実際にこれだけのお金を出せるという現実があるわけで、それに対してこちらから何千万もお金がかかるような調査をやりなさいと言っても無理だと思います。あるお金でどうするのか。手弁当で一部をやらなくてはいけないかもしれない、地元野鳥の会に頼らなくてはならないかもしれない。ここ2~3年日本鳥類保護連盟と富士トレイルランナーズ倶楽部とで調査方法を決めてきましたけど、地元の人も含めてどうしていくか話すほうがいい。そうしないとこうしようかと決めて1年後に発表したとしてもまた同じように、そんなことやっても意味がないと言われると思います。私は少なくとも大事なお金をドブに捨てるような調査をやったつもりはありませんが、そういう風に思われてしまう。地元の人と一緒に調査方法をどうしようかと考えていく場を環境省さんに作っていただきたいと思うのですが、そういうことは環境省さんの仕事としてはどうなのかお聞きしたいと思っております。

<環境省富士五湖管理事務所国立公園管理官 斎藤様>

業務としてそういう場を設けるということは想定しておりませんでした。こういう場で環境省が音頭を取るということが果たしていいのかということが事務局の方と相談しないといけないと思います。ただ環境分野なので環境省が除かれるのはこちらとしても残念だと思うので十分協力はできますし、音頭を取るのを環境省でするのか共同で取るのかというのは調整させていただければと思います。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会 実行委員 千葉>

議事録を作成させていただき皆さんに展開しますが、野鳥調査に関しましては時間をお約束できないとのことです。議事録のお送りも今年やることに関するところのタイムラグが出てしまっていますが、責任を持って事務局から別々になってしまってもお送りさせていただきます。

<ウルトラトレイル・マウントフジ実行員会 実行委員 福田>

今日はお忙しい中本当に貴重なご意見ありがとうございました。皆さんからいただいた全てのご意見はしっかりと我々で考えさせていただいて有効に使わせていただきます。UTMF という大会は1年1年大変な思いをして開催しております。大会を走るランナーに喜んでもらいたい、そして富士山の周りの地元に色々な方に来ていただきたい。野鳥関連の方はなかなか納得はしていただけませんけども、我々の願いとしては富士山の環境をしっかりと整えたいという思い、これはもっともっと先の世代に素晴らしい環境を残したいという思いがあってやっておりますのでぜひご意見ご理解いただいて、また我々と一緒に UTMF 開催に向けてお力をお貸しいただければと思います。本当にありがとうございました。